

株式会社バルクホールディングス
2022年3月期第3四半期
決算説明資料

2022年2月14日

Contents

【2022年3月期第3四半期 連結業績等】

第3四半期連結決算のポイント	4
連結P/L 概要	5
セグメント別業績	6
連結B/S 概要	1 1
2022年3月期通期連結業績見通し	1 2

【Appendix】

連結業績推移	1 4
投資先の状況	1 5

2022年3月期第3四半期 連結業績等

第3四半期連結決算のポイント

◆累計売上高：1,271百万円（前期比+298百万円、+30.7%） コロナ禍による影響をカバーし、引き続き両事業ともに拡大基調

▶セキュリティ事業 597百万円※（前期比+185百万円、+44.9%）

【主な要因】

- ・ アリーナ販売による売上、トレーニングにおけるストック型の保守売上・サブスクリプション売上の積み上げにより売上・利益が大幅に伸長
- ・ セキュリティ対策ニーズの高まりを受け、AI脆弱性診断などのサイバーセキュリティ分野の売上が増加、情報セキュリティ規格のコンサルティング売上也堅調に推移

▶マーケティング事業 690百万円※（前期比+118百万円、+20.7%）

【主な要因】

- ・ マーケティングリサーチにおける主要顧客である放送局を中心としたリサーチ業務が堅調に推移
- ・ セールスプロモーションでは主要顧客である大手スーパーマーケットや食品メーカーからの受注が堅調に推移
- ・ デジタルマーケティング関連の売上が拡大

※事業別の売上高にはセグメント間取引を含む。以下同様

◆売上高

セキュリティ事業・マーケティング事業ともに前年同期比増収増益

◆販管費

事業の効率化・スピード化に向けて、グループ拠点の移転・統合に伴う一時費用（33百万円）を計上したものの、経費削減により、売上高比率で前年同期60.9%から45.4%へ大幅圧縮

◆各段階利益

大幅な増収に加え、固定費の削減が進んだことで、前年同四半期比で約2.6億円の収支改善
当第3四半期会計期間はいずれも黒字

(連結)	2022/3月期 3Q累計			(単位：百万円) 2021/3月期 3Q累計
	金額	増減額	前年同期比	金額
	売上高	1,271	+298	+30.7%
売上総利益	567	+245	+76.4%	321
販管費	577	▲14	▲2.5%	592
営業利益(▲損失)	▲10	+260	—	▲270
経常利益(▲損失)	3	+324	—	▲320
親会社株主に帰属する 当期純利益 (▲損失)	▲11	+321	—	▲333

売上高 (2022/3期3Q)

597百万円

前年同期比 +44.9% 同+185百万円

営業利益 (2022/3期3Q)

73百万円

前年同期比 +167百万円

全ソリューションにおいて収益が拡大し、海外部門の固定費が僅少となったことでセグメント損益が大幅に改善

◆セキュリティトレーニング部門

- 国内におけるCYBERGYMアリーナの増加に伴い収益拡大。ストック型の保守売上・サブスクリプション売上も増加し、売上・利益が大幅に伸長

◆セキュリティソリューション・コンサルティング部門

- セキュリティ対策ニーズの高まりを受け、AI脆弱性診断などのサイバーセキュリティ分野の売上が増加し、ダークウェブ等調査の受注・引き合いも拡大
- 情報セキュリティ規格のコンサルティング売上も引き続き堅調に推移

アリーナ提供の拡大に加え、ISO27701コンサル・Discoveryなどの新サービスも好調、ブランドの浸透と実績の積み上げにより、大型案件の受注機会も拡大

- ▶ 10月：
 - ▶ 株式会社アクトとの間で札幌アリーナ及び福岡アリーナの開設・運営に係る契約締結（2022年3月開所予定）
 - ▶ 警察庁全国21都道府県24カ所サイバー攻撃対策訓練を開始
 - ▶ 一般社団法人国際サイバーセキュリティ協会(IACS)の幹事法人として参画
- ▶ 11月：
 - ▶ 改正個人情報保護法へのPマーク対応の解説セミナー（2021年12月、2022年2月、3月あるいは4月にも順次開催予定）
- ▶ その他、第2四半期から引き続き：
 - ▶ ダークウェブ等調査のDiscoveryの受注・引き合いが拡大
 - ▶ 人材育成プログラムが好評
 - ▶ 大手金融機関を中心とした経営者層向けセミナーが好評
 - ▶ ISO27701(プライバシー情報の保護に関する国際規格)コンサルティング継続実施
 - ▶ NICT 2021年度実践的サイバー防御演習「CYDER」(全65回)継続実施

売上高 (2022/3期3Q)

690百万円

前年同期比 +20.7% 同+118百万円

営業利益 (2022/3期3Q)

91百万円

前年同期比 +75百万円

セグメント損益は引き続き好調に推移。両部門において、デジタルマーケティング関連の売上及び受注が拡大

◆マーケティングリサーチ部門

- 主要顧客である放送局を中心としたリサーチ業務が堅調に推移
- CXの最適化に向けた各種ソリューションサービスの展開を開始すると共に、サービス強化に向けた外部企業との連携を積極的に展開

◆セールスプロモーション・広告代理店部門

- 主要顧客である大手スーパーマーケットや大手食品メーカーからの受注が堅調に推移
- LINEを使ったSNS販促や、スマートフォンを用いた顧客サービスの導入支援などが伸長

既存のリサーチ・セールスプロモーションに加え、CXソリューションサービス展開を本格化 デジタルマーケティング関連の受注も拡大

- ▶ 主要顧客である放送局を中心としたリサーチ業務が堅調に推移
- ▶ 主要顧客である大手スーパーマーケットや大手食品メーカーからのセールスプロモーション受注も堅調に推移
- ▶ LINEに加えてYoutube、Twitter、Instagram、TikTokなどソーシャルメディアマーケティングのアプローチを強化
- ▶ 自社WEBサイト、LINE、シュフー、トクバイ、クラシル、LINEチラシを含むチラシ配信システムによる一括管理の展開
- ▶ パロニム株式会社とインタラクティブ動画テクノロジー『TIG』を既存顧客の大手スーパーマーケットにて実施
- ▶ VR店舗の受注、VRコマースの企画提案など、VRを活用した様々なサービスを提供
- ▶ インバウンドマーケティング・越境ECサービスの新規展開
- ▶ ソフトバンクロボティクス株式会社と連携し、マーケティングDXの新ソリューションを開発・展開

- ▶ オフラインとオンラインの融合をコンセプトとして、事業のスピード化・効率化、マーケティング拠点としての活用、事業間連携や人材交流の活性化によるシナジー効果の創出などを目指し、東京都内に点在するグループ拠点を2021年12月に移転・統合
- ▶ これまで及び今後のグループ事業拡大を踏まえ、優秀な人材の確保、戦略・事業サポート及びリスク管理体制の強化等を目指し、人事部門、経営企画部門、システム部門及び内部監査部門において、スペシャリストを採用

連結B/S概要

<前期末比>

- ◆ **流動資産** : 受取手形、売掛金及び契約資産（前連結会計年度末は受取手形及び売掛金として表示）が72百万、商品及び製品と仕掛品が計53百万円増加したことなどで169百万円の増加
- ◆ **固定資産** : 保険積立金と関係会社株式が計29百万円減少した一方で、有形固定資産が57百万円、敷金及び保証金が58百万円増加したことなどで87百万円の増加
- ◆ **流動負債** : 契約負債（前連結会計年度末は前受金として表示）が41百万円減少した一方で、短期借入金が91百万円、未払金が83百万円増加したことなどで139百万円の増加
- ◆ **固定負債** : 役員退職慰労引当金が15百万円減少したことなどで12百万円の減少
- ◆ **純資産** : 資本金及び資本準備金が新株式の発行などにより、それぞれ82百万円増加したことなどで130百万円の増加
- ◆ **自己資本比率** : 以上の結果、自己資本比率は8.3ポイント増加 （単位：百万円）

(連結)	2021/3月末	2021/12月末		
	金額	金額	増減額	前期末比
流動資産	498	667	+169	134.0%
固定資産	141	229	+87	162.1%
繰延資産	7	7	0	99.1%
総資産	646	904	+257	139.8%
流動負債	402	541	+139	134.6%
固定負債	113	101	▲12	89.3%
純資産	130	260	+130	199.9%
自己資本比率	20.0%	28.3%	+8.3	—

2022年3月期通期連結業績見通し

2022年3月期第3四半期における売上高・各段階利益については、同期間における計画に対し上振れて推移しております。

しかしながら、当社の2022年3月期事業計画においては売上高・各段階利益に占める第4四半期の割合が大きいことから、2021年5月14日に公表いたしました通期業績予想は据え置きいたします。

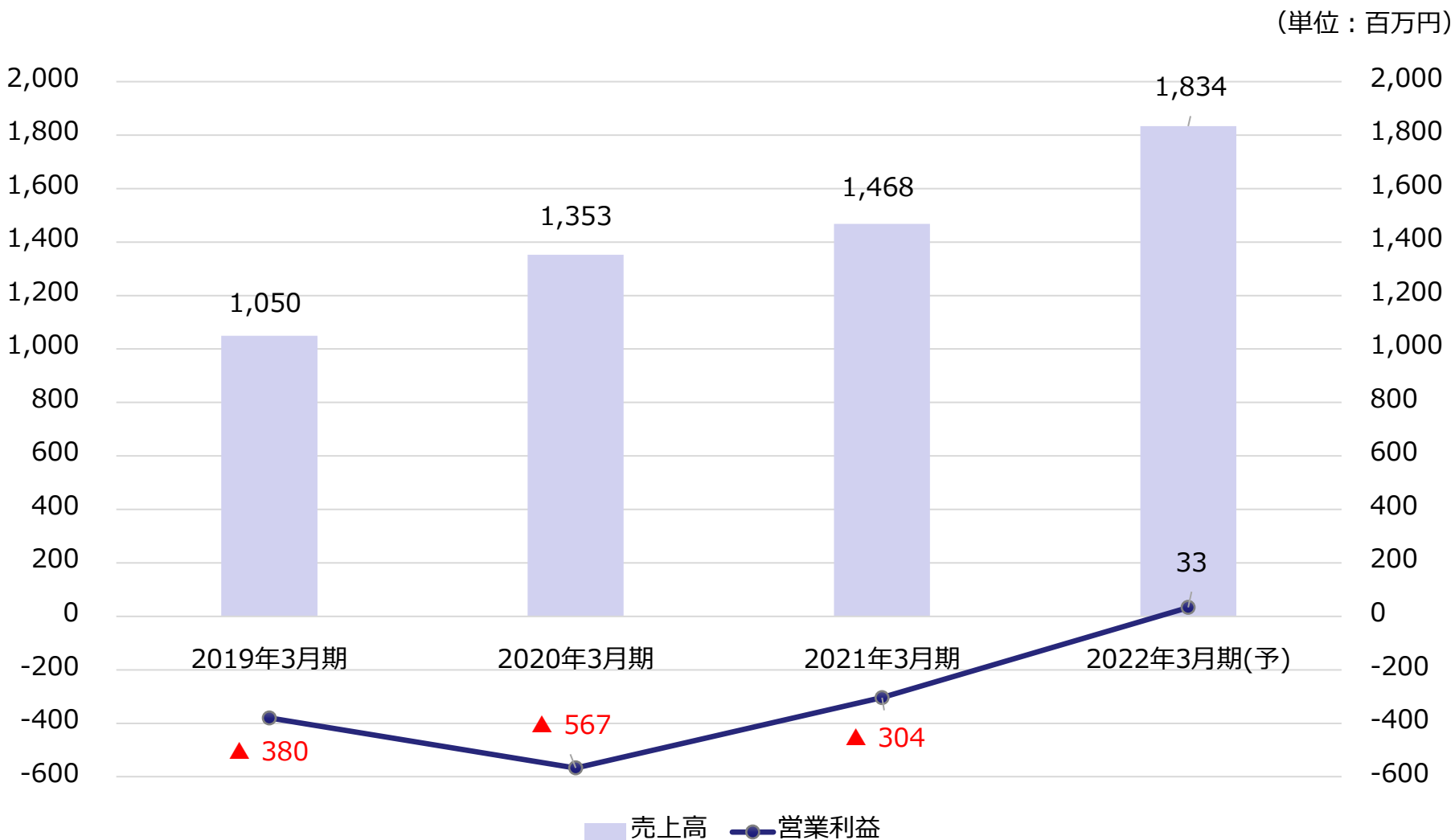
今後本件について開示すべき事項が発生した場合、速やかに開示いたします。

(単位：百万円)

(連結)	2022/3月期			2021/3月期
	金額	増減額	前年同期比	金額
売上高	1,834	+366	124.9%	1,468
営業利益	33	+337	—	▲304
経常利益	12	+337	—	▲325
親会社株主に帰属する 当期純利益	8	+442	—	▲434
1株当たり当期純利益	0.72円	+41.66円	—	▲40.94円

Appendix

連結業績推移



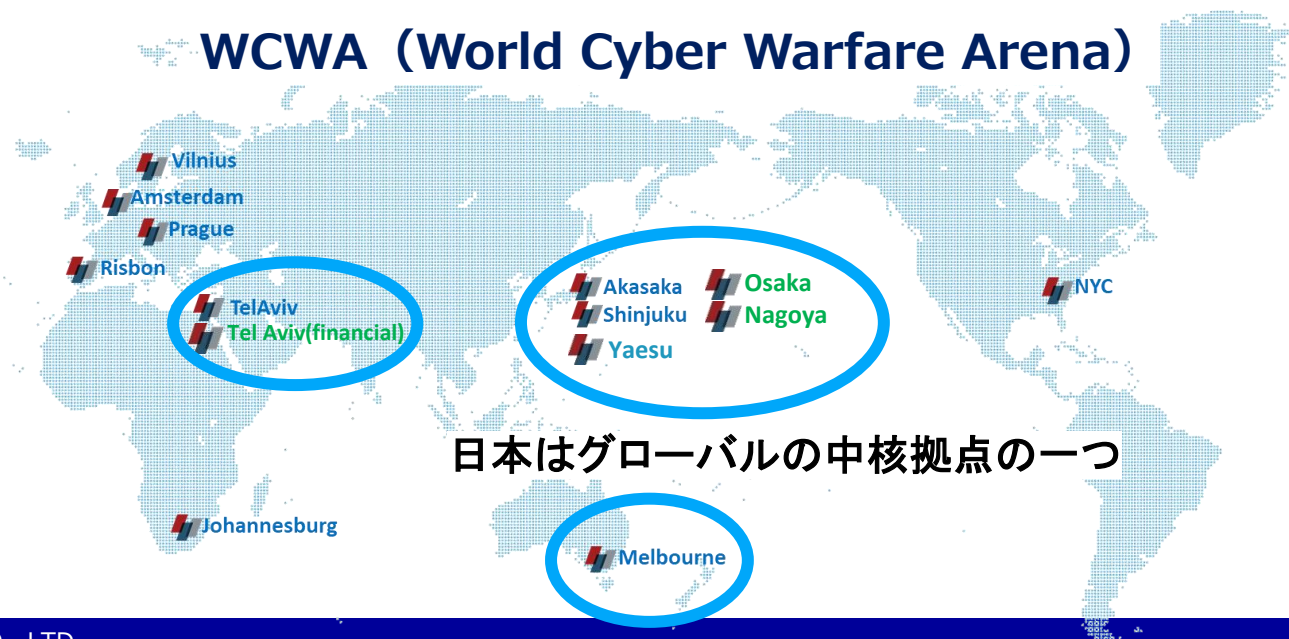
投資先の状況 ~ CyberGym Control Ltd. (イスラエル) ~

▶サイバーアリーナをグローバルで展開

- ・イスラエル、チェコ、ポルトガル、リトアニア、オーストラリア、米国、日本、南アフリカ、オランダ等にアリーナを開設
- ・2021年7月には、世界初の金融機関向けサイバーセキュリティトレーニング施設を ハポアリム銀行・イスラエル電力公社と共同設立
- ・イスラエル、日本、オーストラリアを中核拠点とし、コロナ禍においてもリスク分散を図る
- ・東南アジア、欧州、中米、中東でのアリーナ開設を準備中

▶イスラエル電力公社 (IEC) がJV参画、イスラエル最大手金融グループのハポアリム銀行と資本業務提携

- ・上記2つのイスラエル・トップカンパニーとの緊密な連携により、産業系・金融系幅広いセクターでのノウハウに裏付けされた最先端の技術をベースに市場シェア拡大中
- ・各国政府・政府系機関、プライベートセクター両方から高い評価を受け、採用実績を積み上げている



世界大級の先端テクノロジー見本市「CES」 Innovation Awards 3年連続受賞！

【 AerNos AerHome 】

スマートホーム製品

CES2021 Innovation Awards (Sustainability, Eco-Design & Smart Energy部門)

【 AerNos AerSIP 】

スマートデバイス等の組み込み用センサー

CES2020 Innovation Awards (Embedded Technologies, Tech for a Better World部門)

【 AerIoT 】

空気清浄機、エアコン、スピーカー、街灯等の組み込み用センサー

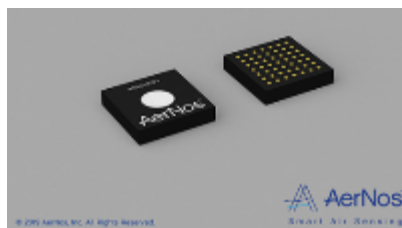
CES2019 Innovation Awards (Tech for a Better World部門)

【 AerBand 】

高血糖及び低血糖の症状を検出するウェアラブルセンサー



AerNos AerHome



AerNos AerSIP



AerIoT



AerBand



<https://www.aernos.com/>

カーボンナノチューブを用いたMEMSに高度なデータサイエンス技術を組み合わせることで、空気中などにある様々な種類のガスをリアルタイムで同時に検知する極小かつ高精度なナノガスセンサーを開発販売

▶NRE(受託開発)進捗

- 新型コロナウイルスの影響で、医療メーカーとのプロジェクトは、顧客がコロナ対策優先
- 一方で、大手電機メーカー向けプロジェクトのNREが開始、一部は検収完了
- オイルガスセクター向けプロジェクトのNREも開始
- その他、幅広いセクターからの開発ニーズに対応中

▶出荷進捗

- 医療メーカー向けに加え、精密機器メーカーに対してプロダクト出荷が今年3月開始
- 検証と並行しながらの販売だが、出荷は増加傾向

▶データ提供のビジネスモデル

- 様々なアプリケーション向けのプロダクト開発・販売に加え、
プロダクト販売+データ解析というビジネスモデルを採用し、長期安定収益を目指し、
データ解析による付加価値を追求

本資料に記載されている当社の予想、見通し、目標、計画、戦略等の将来に関する記述は、本資料作成の時点で当社が合理的であると判断する情報に基づき、一定の前提（仮定）を用いており、マクロ経済動向及び市場環境や当社グループの関連する業界動向、その他種々の要因により、実際の業績はこれらの予想・目標等と大きく異なる可能性があります

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません

なお、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません

I R 及び本資料に関するお問い合わせ

株式会社バルクホールディングス
IR担当

TEL : 03-4500-6500